うたって学ぶしまくとぅば

～rainとめぐる沖縄のうた～

てぃんさぐぬ花編

年　　組　　番　　氏名

イントロコーナー　『てぃんさぐぬ花』ってどんな歌？

『てぃんさぐぬ花（てぃんさぐぬはな）』は、沖縄で昔から歌い継がれてきた、教訓歌（きょうくんか）・童歌（わらべうた）です。この歌では、親が子どもに大切なことを伝えるために、花や爪を使った"たとえ"で教えを語っています。このワークでは、沖縄の童謡をとおして、しまくとぅばの意味や音を楽しく学んでいきましょう！

学習の目標

- ・うたの内容を知ろう　：『てぃんさぐぬ花』がどんな場面・どんな願いの歌か知ろう。
- ・しまくとぅばにふれよう：うたに出てくるしまくとぅばの意味や音の感じを知ろう。
- ・自分の言葉で伝えよう　：学んだことや気づいたことを、文章にまとめて伝えよう。

1.うたの内容を知ろう　『てぃんさぐぬ花』ってどんなストーリー？

Q1．「てぃんさぐぬ花」とは、どんな花のことでしょう？

①ヒカンザクラ　②アジサイ　③サンダンカ　④ホウセンカ

Q2．昔、沖縄では「てぃんさぐぬ花」をどのように使っていたでしょうか？

ヒント：歌詞の「てぃんさぐぬ花や　爪先に染すみてぃ」はどういう意味かな？

①お茶にして飲んだ　②爪を染めるのに使った
③かみかざりにした　④においぶくろにした

Q3．この歌では、「花を爪に染める」ことを何にたとえて表現しているでしょう？

ヒント：歌詞の「親ぬゆしぐとぅや　肝に染みり」はどういう意味かな？

①花を大切に育てること　②爪をきれいに手入れすること
③親の教えを心に深く刻むこと　④友達と仲良くすること

うたって学ぶ しまくとぅば【てぃんさぐぬ花編】
教員用解説資料

【留意点】

◆教材の特性

・教訓歌として親から子へ教えを伝える歌。道徳的な内容を含む
・比喩表現が特徴。「花を爪に染める＝教えを心に染める」など、具体と抽象の対比を学べる
・沖縄を代表する民謡。2012年に県民愛唱歌に選定され、広く親しまれている

◆重要な文化的背景

・てぃんさぐ：ホウセンカのこと。昔は花の汁で爪を赤く染める遊びがあった（魔除けの意味も）
・爪染め文化：花びらをすりつぶし、爪に置いて布で包んで染める伝統的な遊び
・教訓歌の役割：家庭で歌われたり、子どもの遊びの中で自然に道徳を学ぶ手段だった
・北極星の比喩：夜の航海で北極星を目印にするように、親は子の人生の道しるべという教え

◆しまくとぅば学習のポイント

・比喩表現の理解：「染める」という言葉が物理的な染色と精神的な学びの両方を指すことに注目
・音の響きの美しさ：「てぃんさぐ」「うやぬゆしぐとぅ」など、しまくとぅば独特の音を楽しむ
・現代とのつながり：親の教えという普遍的なテーマで、児童自身の経験と結びつけやすい

◆配慮が必要な場面

・家庭環境の多様性：親の概念は多様。養父母、祖父母など、広く「育ててくれる人」と捉える
・価値観への配慮：「親の言うことを聞く」ではなく、「教えを大切にする」という視点で

Q1．「てぃんさぐぬ花」とは、どんな花のことでしょう？

【解答例】④ ホウセンカ（鳳仙花）
【指導のポイント】・「てぃんさぐ」は沖縄方言でホウセンカ（鳳仙花）のこと。
・ホウセンカは赤や桃色の花を咲かせる植物。東アジア原産の一年草。
・沖縄では昔から庭先で育てられ、子どもの遊びに使われてきた。

Q2．昔、沖縄では「てぃんさぐぬ花」をどのように使っていたでしょうか？

【解答例】② 爪を染めるのに使った
【ポイント】・爪染めの遊び：花びらをすりつぶし、爪の上に乗せ、赤く染める。
・この遊びは魔除けの意味もあったとされる（「呪守（まじなまもり）」）。
・現代の子どもたちには馴染みのない遊びなので、実物や写真を見せると理解が深まる。
・ヒントの歌詞を確認させることで、歌詞理解への導入になる。

Q3．この歌では、「花を爪に染める」ことを何にたとえて表現しているでしょう？

【解答例】③ 親の教えを心に深く刻むこと
【ポイント】・花を爪に染める（目に見える）＝教えを心に染める（目に見えない）という対比構造。
・「肝（ちむ）」はしまくとぅばで「心、精神」の意味。
・「親ぬゆしぐとぅ」は「親の言うこと・教え」の意味。
・現代の自分たちに置き換えて「大切なことを心に刻む」経験を問いかけるとよい。

2.しまくとぅばにふれよう　『てぃんさぐぬ花』に出てくるしまくとぅばの意味は？

Q１．『てぃんさぐぬ花』の歌詞をたのしみながら、声に出して歌ってみよう。

【歌詞（しまくとぅば）】	【現代語訳】
てぃんさぐぬ花や　爪先に染すみてぃ	ホウセンカの花は　爪先に染めて
親ぬゆしぐとぅや　肝に染すみり	親の言うことは　心に染めなさい
天ぬ群り星や　読みば読まりしが	天上に群れる星は　数えれば数えきれても
親ぬゆしぐとぅや　読みやならぬ	親の言うことは　数えきれないものだ
夜走らす船や　子ぬ方星見当てぃ	夜の海を往く船は　北極星を目当てにする
我ぬ生ちぇる親や　我ぬどぅ見当てぃ	私を生んだ親は　私の目当て（手本）だ
宝玉やてぃん　磨かにば錆す	宝石でも　磨かなければ錆びてしまう
朝夕肝磨ち　浮世渡ら	朝晩心を磨いて　日々を生きて行こう
誠する人や　後や何時迄ん	正直な人は　後々いつまでも
思事ん叶てぃ　千代ぬ栄い	願いごとが叶えられ　永遠に栄えるだろう
なしば何事ん　なゆる事やしが	何事も為せば　成るものではあるが
なさぬ故からどぅ　ならぬ定み	為さぬことは　いつまでも成らない

Q１．「てぃんさぐぬ花」の歌詞をたのしみながら、声に出して歌ってみよう。

【ポイント】
・音読・歌唱を重視。ゆっくりとしたテンポなので初心者でも取り組みやすい。

・発音のポイント：「ちみさち」「ちむ」など、「ち」の音が多い。
「てぃん」「ぬ」など独特の音にも注目。

【歌詞の構成と比喩】

・一番：具体的な行為（爪染め）から抽象的な教え（心に刻む）へ。基本の比喩。

・二番：星（数えられる）と親の教え（数えきれない）の対比。教えの深さ・尽きなさを表現。

・三番：北極星（航海の目印）と親（人生の道しるべ）の比喩。親の愛情と導きを表現。

【文化的背景】

・夜走らす船：昔の沖縄は海洋交易が盛んで、夜間航海も行われた。北極星は航海の命綱。

・親への感謝：教訓歌として、親の教えを尊重し感謝する心を自然に伝える役割。

・三線教室でも人気：ゆっくりとしたテンポと美しい旋律で、三線の練習曲としても親しまれている。

3.自分の言葉で伝えよう　学んだことや気づいたことを、文章にまとめて伝えよう！

Q１．歌詞の中で、あなたが一番心に残った言葉はどれですか？その理由も書いてみよう。

言葉に残った言葉（しまくとぅば）：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

その理由：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Q１．歌詞の中で、あなたが一番心に残った言葉はどれですか？その理由も書いてみよう。（自由記述）

【解答例】（例）「親ぬゆしぐとぅや　肝に染みり」
→ 心に染めるという表現が美しいと思った。自分も大切なことを心に刻みたい。
【ポイント】・「心に残った」の基準は児童によって異なる。（比喩の美しさ、親への感謝、音の響き）
・親への感謝を押しつけるのではなく、「どう感じたか」を自由に表現させる。

Q２．「てぃんさぐぬ花」を、まだ知らない人に紹介するなら、どう紹介しますか？

Q２．「てぃんさぐぬ花」を、まだ知らない人に紹介するなら、どう紹介しますか？（自由記述）

【解答例】（例）「てぃんさぐぬ花」は、沖縄で昔から歌われている教訓歌です。「てぃんさぐ」というのはホウセンカという花のことで、昔は花の汁で爪を赤く染める遊びがありました。この歌では、「花を爪に染めるように、親の教えを心に染めなさい」という意味が込められています。…等
【ポイント】・文章構成力よりも、「自分の言葉で伝えようとしているか」を重視して評価。
・「てぃんさぐ＝ホウセンカ」「爪染めの文化」など学んだ知識を活用できているかを確認。

もっと調べてみよう！

・沖縄には、他にどんな教訓歌（親から子への歌）があるかな？
・「てぃんさぐぬ花」は、どんな場面で歌われてきたか調べてみよう！
・自分の地域にも、昔から伝わる"教えの歌"があるか探してみよう！

総合的な指導のポイント（全体を通して）

ワークシート活用は任意とするが、動画と連動させる：動画で歌や伝説を視聴してからワークに取り組むと、理解が深まる。動画の流れ（曲紹介→1回目歌唱→物語解説→歌詞解説→2回目歌唱）に合わせて、ワークを段階的に進めるとよい。